

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名		児童発達支援 8(エイト)		公表日		2025年 5月 10日					
				利用児童数		3人		回収数		3人	
		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応			
環境・体制整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	3				それぞれの活動に合う部屋が複数あり、とてもいいと思います。	メインルーム・学習部屋など3部屋で支援の対応をしています。			
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	3				送ってくださる写真にスタッフさんがたくさんいられる様子が見られ、適切であると思います。	児童指導員、指導員を合わせると、毎日配置基準よりも多い人員を配置しています。			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	3				どの部屋で何をするか、部屋の広さや部屋の配置等がわかりやすいと思います。	ブレイルームが2階にあるため、階段の上り下りは、必ずスタッフが1人以上同行するようにしています。			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	3				とてもきれいな部屋で、うちの子がのびのびと走り回れるくらいの、とても良い環境になっていると思います。	始業前、終業後の清掃、消毒はコロナ禍の時と変わらず時間をかけて徹底して行っています。こまめな換気にも心掛けています。			
適切な支援の提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	3				3歳の子どもでも行えるように工夫して活動を計画して下さっていると思います。	毎日の活動のなかで、一人一人の特性合った濃淡のある取り組みを行っています。			
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	3				支援プログラムは支援内容に合っていると思います。	支援プログラムをコアに掲げて、事業所の特徴を支援内容に反映させて提供しています。			
	7	こどものことを十分に理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	3				アセスメントをしっかり行っていただき、うちの子に合った計画を作成して下さいと思います。	定期的なモニタリングの他に、他機関との情報の共有、スタッフとのカンファレンスを重ねて計画を作成しています。			
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	3				具体的な到達目標を設定していただき、その目標を達成する為の支援内容がしっかりと設定されていると思います。	5領域はもとより、それぞれの項目に準じて適切に支援内容を設定しています。			
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	3				子どものベースに合わせて、設定された支援を行っていらっしゃると思います。写真等をいつも送っていただきありがとうございます。	スタッフミーティングで情報の共有と支援内容の確認を行いながら、日々の支援が行われています。			
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	3				毎日異なるプログラムを用意していただき、子どもが楽しみながら学べるように工夫していらっしゃると思います。	「センザリープレイ」や「スヌーズレン」など、新しい活動プログラムを取り入れています。			
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	2				1	1月からお世話になっている為、そういう機会が少ない為、わかりません。	今後、そのような機会を設けてゆこうと考えています。		
保護者への説明等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	3				丁寧に説明していただき、今現在もわからないことを質問すると遅い時間にもかかわらず教えてくださいます。	見学時・契約時に丁寧に説明しています。			
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	3				個別支援計画を見ながらしっかりと説明していただきました。	支援内容の説明後に、ゆっくりと内容を理解して了承していただいてから、計画書に署名していただいています。			
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	3				送迎の際に情報を提供していただいたり、見学の際に活動に参加させていただいたり、行われていると思います。	家族支援プログラムに基づき、保護者に適切な対応や知識、情報を提供していますが、研修会についてはこれからとなります。			
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	3				連絡帳でのやりとり、送迎の際に様子を教えていただいたり、ラインで情報を取り合ったり等でできていると思います。	連絡帳、送迎時での口頭以外にも、その日の活動の様子などを画像・動画でも配信しています。			
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	2				1	まだ通い始めて日が浅いので、面談等の機会は少ないですが、いつもお世話になり助かっています。	定期懇談以外にも、年度はじめや発達検査、受診などがあればヒヤリングを行い、助言などにも努めています。		
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	3					送迎の際に話を聞いていただき、一緒に喜んでくださったり、憂いてくださったり等とても話しやすくてありがとうございます。	保護者とのコミュニケーションを大切にしながら、丁寧に時にはフランクに支援の様子を伝えています。		
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	1				2	まだ日が浅いのでわかりません。	今後、そのような機会を設けてゆこうと考えています。		
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	2				1	わからないことや相談したいことを、電話やライン等で伝えると、すぐに対応してくださいます。	子どもや保護者からの相談には、児発官が直接、あるいはスタッフを通じて迅速かつ適切に対応しています。必要があれば記録にも残しています。		

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	3			子どもがわかりやすいように、絵や写真等で視覚を利用するなどの配慮、保護者に対して写真や動画を送って下さる等、しっかり行われていると思います。	子どもたちは、ケースにより写真カードなどビジュアルで意思の疎通を行い、保護者とは連絡帳やメールにて情報の伝達のための配慮をしています。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	2	1		毎回活動後に、一日の子どもの様子を写真等を送って下さり「こういった活動をします」との連絡を下さいます。	ホームページやInstagram、ラインなどにより情報の発信。自己評価の結果はホームページ、すてっぷサポートに公表しています。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	3			しっかりと管理して下さっているように思います。	施設ができる安全な場所に、厳重に管理、保管されています。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	3			毎月の始めに避難訓練を行っていただき、うちの子も参加させていただいています。	各マニュアルは作成され、契約時などに丁寧に説明しています。定期的に訓練も実施しています。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	3			毎月の始めに避難訓練を行っていただき、うちの子も参加させていただいています。	一月に一度、地震、火事、洪水などを想定した訓練を行っています。一年に一度、不審者対応訓練も行っています。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	3			階段から落ちないようにガードが用意されていたり、地震が起きても上から物が落下しないように安全が確保されていると思います。	「安全計画」を作成して、それに基づいて点検などを行い、安心して安全に支援が行われるようにしています。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	3			子どもが机に頬をぶつけた際に、すぐに連絡をくれました。	「緊急時対応マニュアル」を作成して、スタッフによる役割分担、速やかな連絡などの体制を整えています。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	3			いつも笑顔で喜びながら通所しています。送迎の車に乗りたくてダッシュで向かいます。	事故や怪我などには細心の注意をはらい、清潔で安全な事業所づくりを行ってゆきます。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	3			「今日はエイトさんだよ」と言うと、「くるま！」と嬉しそうな顔で喜んでいます。	新しいアクティビティを取り入れながら、集団としての楽しみ方も提供してゆきます。
	29	事業所の支援に満足していますか。	3			たのしい企画、子どもに対して丁寧に関わって下さること、活動後に沢山の写真等を送って下さること本当に感謝しています。ありがとうございます。	子どもたちはもとより、保護者支援にも児童官、スタッフ共に一丸となり取り組んでゆきます。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		児童発達支援 8(エイト)		公表日		2025年 5月 10日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	12		メインのプレイルームの他に、学習や活動に使用する部屋が2部屋あります。	スペースは広くとってあるが、運動に特化した部屋があると、更に支援の幅が広がるのではないか。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	12		児童指導員、指導員を合わせると、毎日配置基準よりも多い人員を配置しています。	スタッフの配置にはいつも余裕を持って、安心できる支援をしてゆきたい。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	11	1	・プレイルームが2階にあるため、階段のより下りは、必ずスタッフが1人以上同行するようにしています。 ・階段があるが安全に昇降できるように支援している。	施設内に階段があるため、重身の利用者の受け入れができる体制がとれない。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	12		・始業前、終業後の清掃、消毒はコロナ禍の時と変わらず時間をかけて徹底して行っています。こまめな換気にも心掛けています。 ・とても清潔でアピールできるレベルだと思います。	感染症対策には際限がなく、多くの時間を有する。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	12		学習への取り組みや、不安定時にクールダウンするための別室を設けてあり、必要に応じて移動できる環境です。	体調が優れない子どもが、帰宅の手配までに一時的に隔離して別室で過ごす場合に、同室して支援につくスタッフにも感染するおそれがある。
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	12		年間、月間の他に、毎日のミーティングのなかで、スタッフが周知し参画しています。	目標に向かう際に、家庭や保育園などとの連携が必要になる場合があるが、情報の共有が難しいケースもある。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	12		評価表の他にも、日々の連絡のやり取りのなかで、保護者の思いをくみ取り業務の改善につなげています。	保護者からの意向が、物理的に困難な場合もある。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	12		管理者と職員は定期的に面談を行っており、職場環境の改善につなげています。	職員の数だけ意見や思いがあり、それをまとめてゆくエネルギーも必要になる。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	10	1	外部の有識者、法人のブレインの方々に法人としての業務のあり方について意見をいただいている。	第三者の幅を広げてゆくことも必要になってゆく。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	12		社外、社内ともに研修を受講することを推奨しています。	研修にかかる時間を捻出することが第一歩になる。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	12		支援プログラムを作成して、ホームページと、すてっサポートにて公表しています。	公表してある支援プログラムが、どのくらい周知してもらえているのか？
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	12		定期的なモニタリングの他に、他機関との情報の共有、スタッフとのカンファレンスを重ねて計画を作成しています。	子どもや保護者からのニーズを引き出す作業が淡泊にならないようにしてゆく。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	12		支援計画を作成時のカンファレンスだけではなく、日々のミーティングのなかで共通理解を深めていっています。	利用はじめる支援計画書に関しては、保護者からのヒヤリングがほとんどを占める。
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	12		支援計画の（原案）をスタッフ全員が回覧した後に、カンファレンスを行い支援計画の本案を作成しています。	支援計画を作成するための、懇談の日時を設定することに時間とエネルギーを要する。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	12		5領域に沿ったかたちで確認し、成長の過程においてこまめに見直しています。	適応行動の状況の幅が広く、把握が困難なケースもある。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	11		5領域はもとより、それぞれの項目に準じて適切に支援内容を設定しています。	5領域をあまりにも意識し過ぎると、画一的な支援計画になってしまうのではないかな？
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	10	1	基本はひとりのスタッフが立案していますが、活動内容に応じて他のスタッフが立案し、素材の作成はスタッフ全員で行っています。	音楽レクリエーションを担当する、優れた人材の確保が難しい。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	11		・「センサリープレイ」や「スヌーズレン」など、新しい活動プログラムを取り入れています。 ・子どもたちのことを考えながら、色々な活動をしている。	新しい活動プログラムではなく、「毎回、同じプログラム」を要望する保護者の声もある。

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	11		活動のバリエーションのなかで、個別と集団(チーム)の組み合わせで計画を作成して支援を行っています。	個別では力を発揮できるが、集団活動が極端に苦手な子どもたちが多く感じている。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	11		スタッフミーティングで情報の共有と支援内容の確認を行いながら、日々の支援をチームとして行っています。	スタッフミーティングの時間を長くにとってゆきたいが、時間に限りがある。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	10	1	その日の振り返りは、常勤職員を中心に行い、翌日に非常勤職員を交えてスタッフミーティングを行っています。	スタッフミーティングの時間を長くにとってゆきたいが、時間に限りがある。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	11		活動の記録は紙ベースと画像で保存することで共有して、短期、長期の支援に役立てています。	過去の活動の記録と比較検証しているが、紙ベースのものが増えてしまうので、データ化が必要になる。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	11		定期懇談以外にも、年度はじめや発達検査、受診などがあればヒヤリングを行い、必要があれば計画の見直しを行っています。	支援計画を作成するための、懇談の日時を設定することに時間とエネルギーを要する。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	11		児童発達支援管理責任者が参画しています。	担当者会議の必要性が高まっているが、他機関(学校)などとの時間調整が困難である。
	25	地域の保健、医療(主治医や協力医療機関等)、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	10	1	区の基幹センター、学校、相談支援事業所などと連携して、その利用者にとって最善の支援を行う体制を整えています。	医療ケア児がいないことから、医療機関との連携を図ったことがない。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	11		情報の共有が困難な機関もあることは否めないが、保護者を通じて情報の提供をいただいています。	機関によっては「個人情報」を盾に、情報の共有が困難な場合がある。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	11		交流がある学校などには、事前に情報の提供を行うことがあるが、その他に関しては登校し始めてから行っています。	年度が始まり、担任教師が決定するまでは訪問を控えている。
	28	(28~30は、センターのみ回答)				
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外泊研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答)	8	1	区の自立支援協議会の部会などで連携を図ってゆくケースはあるが、これまでに助言を受ける事案はありませんでした。	センターと事業所の関係に、上下があるとは考えていない。
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	7	5	現在は行っていないが、今後そのような機会があれば企画してゆきたいです。	時間と労力が必要になると考えている。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	12		連絡帳、送迎時での口頭以外にも、その日の活動の様子などを画像・動画でも配信しています。	学校、家庭、事業所では異なる顔を持っている子どもたちが多くいることを、保護者の方々に理解していただきたいと願っている。
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	9	3	家族支援プログラムに基づき、保護者に適切な対応や知識、情報を提供していますが、研修会についてはこれからとなります。	母親だけが窓口になる場合が多く、父親、祖父母も含めたペアレントトレーニングが開催できることが望ましいと考えている。
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	12		見学時、契約時に丁寧に説明しています。	集金が困難なケースもある。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	12		子どもや保護者の思いを優先して支援計画を作成しています。	未就学児のため、保護者の思いが強く表れるケースが多い。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	12		支援内容の説明後に、ゆっくりと内容を理解して了承していただくから、計画書に署名していただいています。	署名用の計画書を紛失してしまう保護者の方もいる。再発行して署名をいただいている。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	12		定期懇談以外にも、年度はじめや発達検査、受診などがあればヒヤリングを行い、助言などにも努めています。	保護者には子どもたちは、それぞれ家庭、学校、事業所の顔を持っていることを説明して理解をいただけるようにしている。

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	4	8	今後、そのような機会を設けてゆこうと考えています。	なるべく多くの方に参加してほしいが、その日程の調整が難しい。
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	12		子どもや保護者からの相談には、児発官が直接、あるいはスタッフを通じて迅速かつ適切に対応しています。必要があれば記録にも残しています。	相談の件数が多く、記録してゆく作業に時間を要する。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	12		ホームページやInstagram、ラインなどにより情報の発信。自己評価の結果はホームページ、すてっぷサポートに公表しています。	毎日の活動の様子を、画像や動画で配信しているため、その編集作業に時間を要する。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	12		施錠ができる安全な場所に、厳重に管理、保管されています。	他機関との連携の中で、個人情報等を盾に情報をもらえないケースがある。
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	12		子どもたちとは、ケースにより写真カードなどビジュアルで意思の疎通を行い、保護者とは連絡帳やメールにて情報の伝達のための配慮をしています。	約束事がある際には、1週間前、3日前、前日、当日とメールでカウントダウンするケースもある。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	5	6	現在は行っていないが、今後そのような機会があれば企画してゆきたいです。	コロナ禍のなかで、そのような企画は難しい時期が長く続いていた。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	12		各マニュアルは作成され、契約時などに丁寧に説明しています。定期的に訓練も実施しています。	訓練がマンネリ化しないように、緊張感を維持しながら毎月取り組んでいる。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	12		一月に一度、地震、火事、洪水などを想定した訓練を行っています。一年に一度、不審者対応訓練も行っています。	初期の頃のコロナ禍の業務の継続の手続きが煩雑であった。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	12		契約時にモニタリングのなかで、丁寧に聞き取りを行い、スタッフ全体に周知するようにしています。	事前にモニタリングで把握していた事案が、保護者からの連絡がなく変更になっているケースもある。
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	12		現在は利用者の中には該当する例はないが、エビペンなどの使用訓練は行ってきました。	アレルギーよりも、偏食の利用者への対応が食の問題としては大半を占める。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	12		「安全計画」を作成して、それに基づいて点検などを行い、安心して安全に支援が行われるようにしています。	安全管理からはみ出してしまう事例が多く、安全計画の枠組みがどんどん大きくなってゆく。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	12		見学时、契約時に「安全計画」を示して丁寧に説明しています。	来所時に発見した子どもの怪我に関して、いつ、どこで負ったものなのかをヒヤリングして確定させる作業は困難なケースもある。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	11		事業所内で共有して、スタッフミーティングにて再発防止の対策を講じています。	ヒヤリハット報告書を書く時間を確保して、それを習慣化してゆかなくてはならない。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	11		全体会議のなかで社内研修を行い、社外の研修にも積極的に参加しています。	定期的にアンガーマネジメント研修の機会を設けてゆかないといけない。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	11		見学时、契約時に丁寧に説明しています。	身体拘束が否か、子どもによっても、場面においてもライン引きが難しいこともある。